PURPOSE MOVES US



2019 年度 NIKE, Inc. インパクト レポート　エグゼクティブ サマリー

NIKE の目標は、スポーツを
通じて世界を 1 つにし、健全な
地球、活発なコミュニティ、
すべての人にとって平等な
社会を創り出すこと。



CEO の書簡

NIKE はスポーツを進化させる使命を負っています。ところが、ここ数年、より大局的な課題にも直面しています。スポーツ自体が保護を必要としているのです。

こうした現状を受け、私たちはアスリートにインスピレーションとイノベーションを届ける以上の使命について考えなければなりません。未来を担う世代を最大限にサポートするため、私たちは Nike の最高傑作を生み出すことで、現在最も差し迫った課題に取り組んでいます。

Nike には、スポーツを通じて世界を 1 つにし、健全な地球、活発なコミュニティ、すべての人にとって平等な社会を創り出すという目標があります。これらは目標であると同時に最優先の指針でもあり、Nike のあらゆるビジネスに関する決断の基盤です。

この『2019 年度 Nike Inc. インパクト レポート』の作成時点では、私が Nike の社長兼 CEO となって 2 か月足らずでしたが、Nike には桁外れのインパクトを与える力があることはすでに明白でした。

それはスポーツの力です。社内の多くの仲間同様、私もスポーツの力を信じて Nike に入社しました。スポーツには人生とコミュニティを変える力があると私は信じています。特に現在は、かつてないほど社会が分断し、格差が社会を摩耗させ、気候変動が人類の存続を脅かしています。こうした状況で、スポーツには人々を団結させて世界をより良い方向へ変える力があると考えます。

インパクトの力を今最も必要としているのは、変貌の一途にある地球にかかわる分野です。気候変動がもたらすリスクの拡大は、数々のデータを見れば一目瞭然です。アスリートも同様の意見を発信しています。マラソンのスタート時刻が日の出前に繰り上げられ、選手とファンが酷暑による熱疲労にさいなまれる中、スポーツ関係者は気候変動の悪影響を直接実感しています。こうした悪影響は、Nike を愛用するアスリートに、今まさに影響を及ぼしており、Nike はビジネスを急速に進化させる必要性に迫られています。

地球がなければ、スポーツもありません。Nike がサスティナビリティとインパクトに真摯に取り組んでいるのはこの単純な真理を理解しているからこそです。

FY19 に私たちは、目標に向けて大きく飛躍しました。**コミュニティへのインパクト**を促進するための投資額は 8,100 万ドルを突破し、スポーツを始める機会を与えた子どもの数は 1,700 万人を超えました。子どもに運動・スポーツの才能を発揮する機会を与えれば、人生を変えることができます。そのため Nike は、子どもにスポーツの機会を与えることをコミュニティ活動で重視しています。コーチの手腕も子どもの体験を大きく左右する可能性があるため、Nike は支援プログラムを通じてコミュニティで活動する 10 万人近いコーチの育成プログラムをサポートしています。

特に力を入れているのが女性コーチの数を増やすことです。女性コーチは、**スポーツに親しむ少女を増やす**強力な要因となるためです。Nike は、コミュニティ組織とタッグを組んで女性コーチを発掘・育成することから、すべてのコーチが少女を受け入れる文化を促進するために米国オリンピック&パラリンピック委員会との共同プログラムでトレーニングガイドを立ち上げることまで、多彩な取り組みに投資しています。少女がスポーツと人生におけるリーダーシップを学び、スキルを磨き、リーダーとなることができる（必ずなれるはずです）安全なスペース作りに投資し続けます。

Nike は以前、所有または運営している施設における再生可能エネルギーの使用率を 2025 年までに 100% に引き上げる目標を設定しました。すでに**北米では再生可能エネルギーの使用率が 100%** に達しており、世界的な Nike のエネルギー使用率の目標に向かって大きく前進しています。埋め立てや焼却されるフットウェア製造廃棄物をなくすことにも取り組んでいます。FY19では、**フットウェア製造廃棄物の 99.9% は Nike 契約工場によってリサイクルされるか、エネルギーに転換**されています。さらに、持続可能性の高い素材の使用率を製品全体で増やしています。例えば、年間 10 億本のペットボトルを再生ポリエステルに転換してジャージ製品で使用するなど、アパレルとフットウェアの両方でこうした素材の使用を推進しています。

サプライチェーンでも、スキルの高い優秀で意欲のある人材の育成に投資しています。この投資の重要な目的の 1 つは、契約工場の労働者にも生産性向上のメリットを分かち合えるようにすることであると考えています。今年、Nike では**サプライヤーを対象とする「エンゲージメントと健康に関するアンケート」**の規模を拡大しました。当社サプライヤーの労働状況を包括的に把握し、実行可能な情報を得るためです。FY19 において、アンケートに参加した施設は 45 件に増え、対象従業員の総数は 27 万人とほぼ倍増しました。

Nike 社内でどのような変化を推進する必要があるかについても真摯に検討し続けています。FY19 も昨年同様、世界中の男女間および米国の白人と過小評価グループ（URG）間における**賃金平等率**を維持しました。昨年 Nike でVPレベルの役職に就く女性の割合は 3 パーセンテージポイント（p.p.）上昇し、全世界で 39% に達しました。米国の URG については 2 p.p. 上昇し、21% に達しました。これはまずまずの進歩ですが、なお不十分です。Nike は引き続き過小評価の是正を進め、帰属意識を大切にする社風を高めていきます。

さらに Nike は子どもとコミュニティがさまざまな場所でスポーツに親しめるように努力を続けます。そのカギを握る持続可能性の高いソリューションの数を増やすため、社内のチームは日々、開発に励んでいます。あらゆる場所のすべてのアスリートのためにイノベーションに邁進し、全員が平等に競える場所を確保し、既存のシステムに挑戦しながら、より循環的な未来に向かって走り続けます。

Nike がスポーツ界の勝者となったのは、大胆さ、創造性、熱意といった要因があったためです。今世界が直面している課題に、私たちがより幅広いインパクトを及ぼせる立場にあるのもこうした要因によるものだと私は思います。ですから、課題を克服できると確信しています。すでに、Nike の仲間たちは人類と地球のために、世界中で有意義な成果を成し遂げつつあります。直面している課題はとてつもなく大きい反面、チャンスもとてつもなく大きなものです。

Nike の慣例にならって言えば、参戦するだけでは不十分です。私たちは勝者にならなければなりません。常に向上心を持ち、大望を抱いていれば、私たちは望んでいる未来を作り上げることができ、実際にそうなるでしょう。



John Donahoe
社長兼 CEO

人材の潜在能力を活かす

経営陣

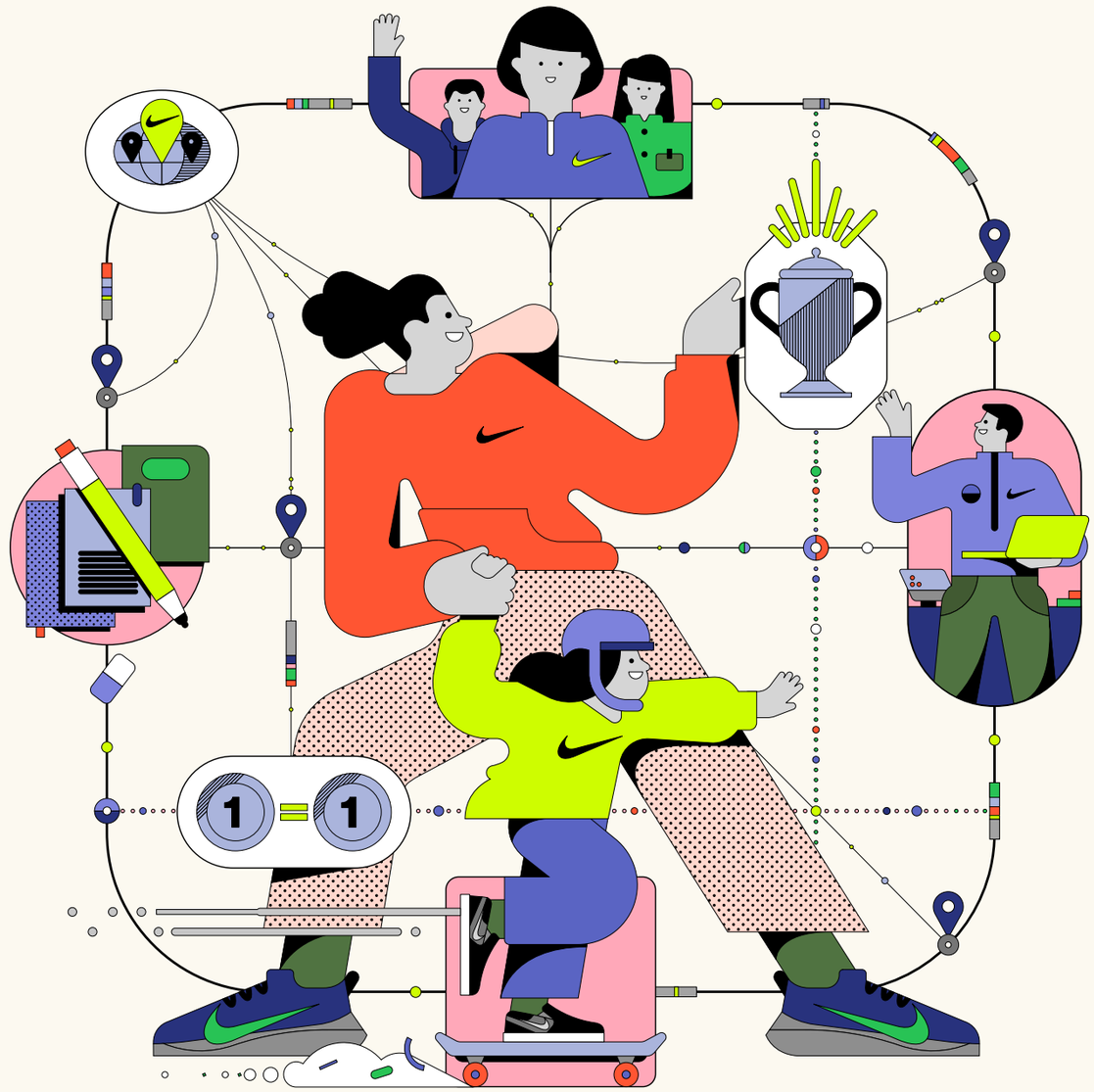
3 p.p.[1]
VP レベルの役職に就く**女性**の率を世界的に引き上げ、合計 39% を達成

2 p.p.
VP レベルの役職に就く
米国の **URG** の率を引き上げ、合計 21% を達成

>50%
の従業員が世界各国で**無意識の偏見に対する自覚**トレーニングを受講

採用

52/40%
女性/URG の Nike 米国の
インターンシップ プログラムへの参加率



給与とベネフィット

1:1
平等な給与を世界各国の女性と米国の URG について維持

家族向け給付金
支援強化: 不妊治療と養子縁組に対する支援
新設給付金: 代理出産および学習面、社会面、行動面で制約を持つ子どもの親に対する支援

スポーツ センター
世界各国の本社で働く従業員は**無料で利用可能**

能力開発

育成者プログラム
キャリア アップとカルチャーの育成を図るために、最大 1,000 人の従業員が利用

1 p.p. = パーセンテージ ポイント

人材の潜在能力を活かす

従業員エンゲージメント

147,000 時間
のボランティア活動に従業員が従事

2,700+
の組織が従業員の支援を受ける

5,400 人
のリテール部門の従業員が 24 か国で、**NIKE Community Ambassadors** プログラムを通じて若者向けコーチのボランティアを務める

コーチの訓練

～10 万人
のコミュニティコーチを、パートナーと共同で訓練し、体験を通じてスポーツの楽しさを子どもに伝える



コミュニティへの投資

4 億 1,700 万ドル
FY15～FY19 におけるコミュニティへの投資額。そのうち 1 億 3,000 万ドルはあらゆる人に**同じ水準の運動場**を提供して平等を推進

8,100 万ドル
FY19 における
コミュニティにインパクトを与えるための投資額

980 万ドル
Employee Matching Gifts、Volunteer Rewards、Nike Foundation マッチを通じて**寄付された金額**

子どもとスポーツ

>1,700 万人
スポーツに親しんだ子供の数
（Nike と世界中の **90 を超える**
コミュニティパートナーがサポート）

製造現場の改革

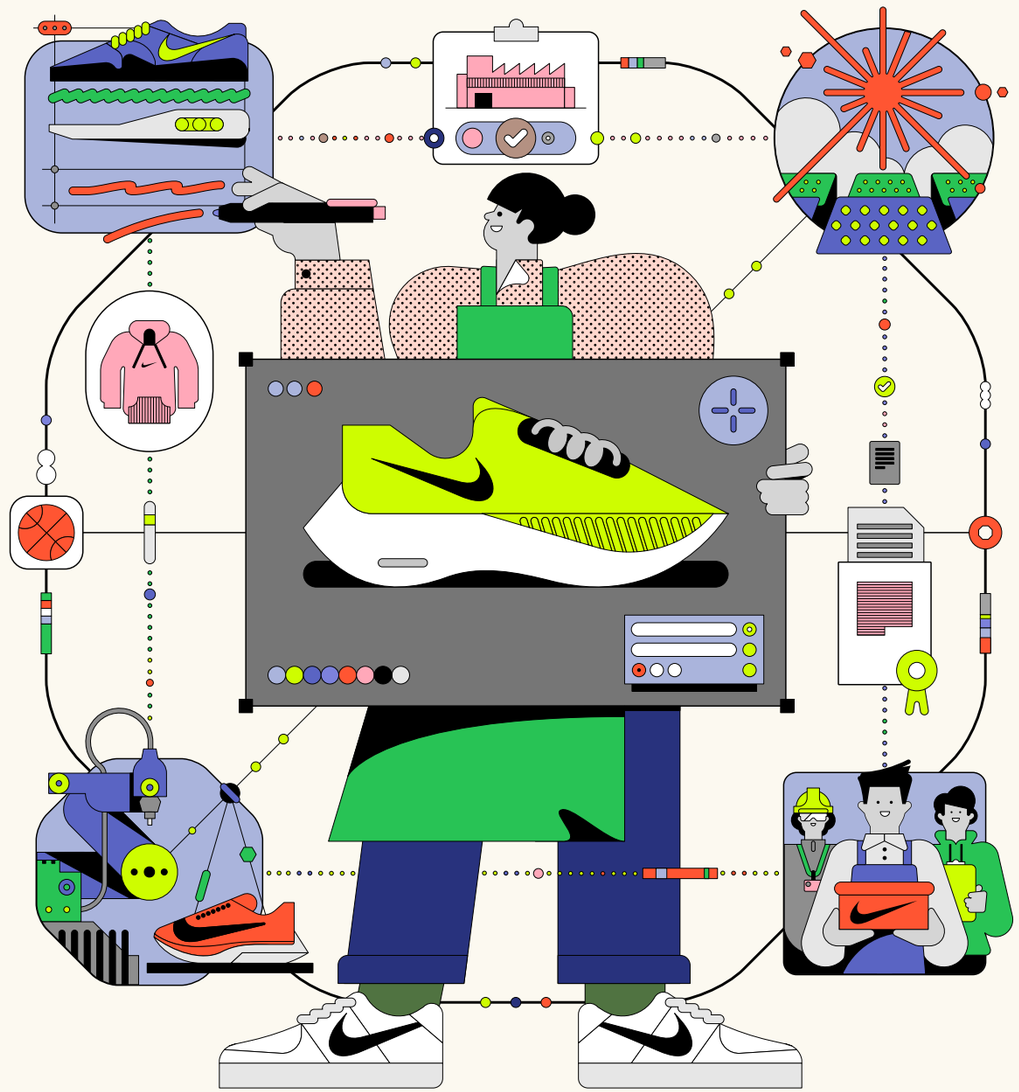
持続可能な素材の調達

>100 万人
の労働者が 41 か国の Nike の調達拠点で就労

～93%
Nike の 525 件の契約工場のうち**ブロンズ以上**（Nike の持続可能性の認定基準）にランクされた率

FLA 再認定
を NIKE の持続可能な製造プログラムが取得し、**人権に関する法令順守と社会的責任**に対する体系的アプローチが代表的基準に達していることを証明

>10 万人
の労働者（Nike のティア1サプライヤー工場に所属）が**防火と耐火**に関するトレーニング セッションを修了
（2015 年以降の累計数）



意欲の高い労働者

27 万人
の労働者が 11 か国の 45 契約工場から Nike の**エンゲージメントと健康**（EWB）に関するアンケートに参加

報酬・給付金
工場の報酬戦略による労働者と施設業績への影響に関する**4 年間にわたる研究**結果を公表

業界変革を加速するパートナーシップ

4 億 3,700 万ドル
Nike と国際金融公社（IFC）が**貿易金融プログラム**を通じて分配した支援額。ブロンズ以上にランキングされた施設に有利な貿易金融条件を提示することで、サプライヤーの業績向上を目指す

責任ある労働イニシアチブ（RLI）
大手企業と専門組織との共同イニシアチブ「RLI」に参加し、当社バリューチェーンにおける移民労働者の採用方法の**改善**を推進

環境フットプリントの最小化

素材

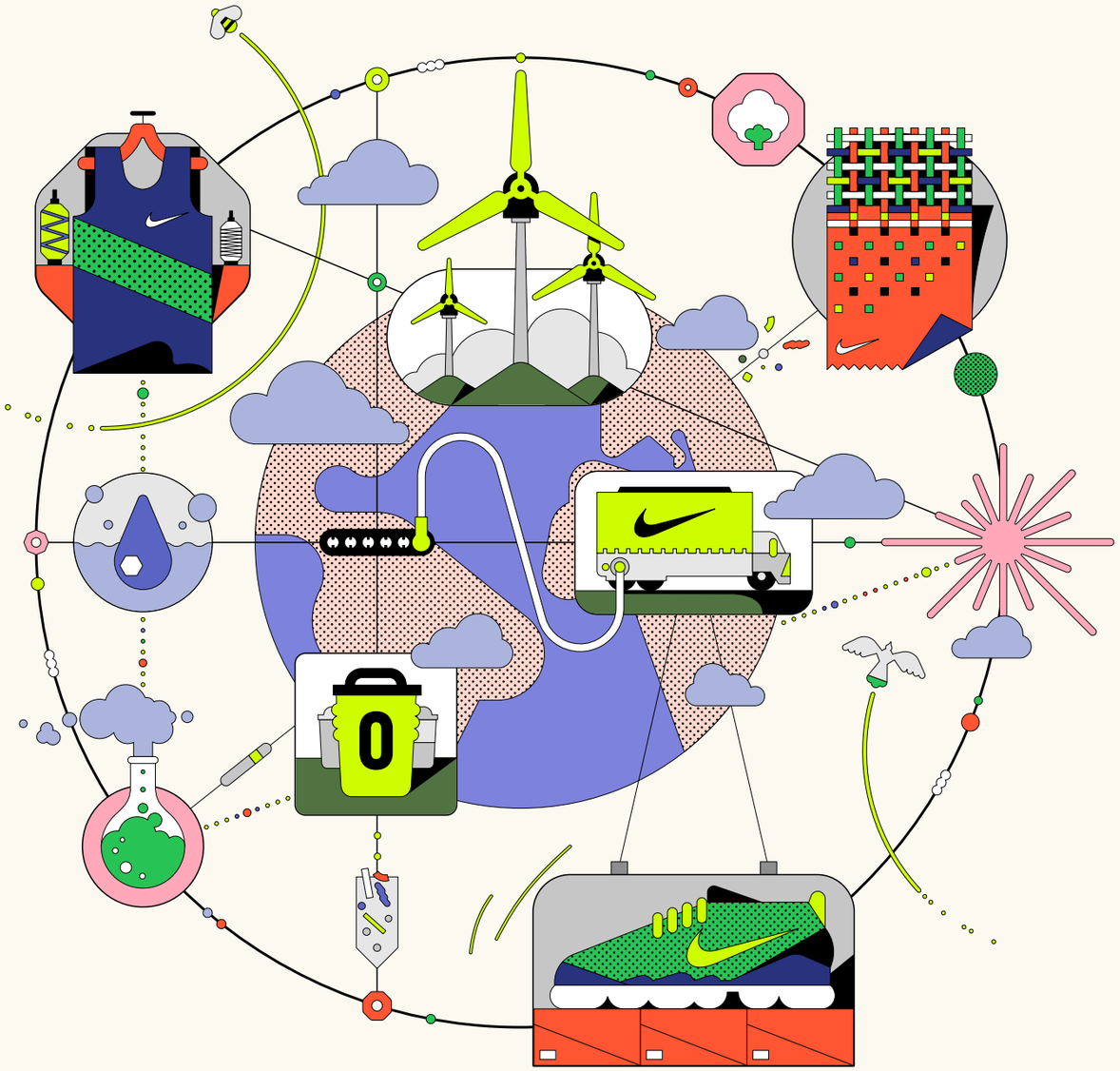
>75 億本
のペットボトルが埋め立てや河川から回収され、リサイクルポリエステルとしてフットウェアとアパレルに転換（2010 年以降の累計数）

535 億リットル
の水の節減と 20 万 kg の殺虫剤低減効果に結びつく持続可能な綿へのシフト

76%
Nike ブランドのフットウェアとアパレル製品に占める**リサイクル素材**の割合（フットウェアのアッパーからジャージ製品全体まで）

水

230 億リットル
主要素材ベンダーが導入した効率化プログラムを通じた**真水の節減量**（FY16 以降の累計）



商品

2,300 万組
の Flyknit シューズの製造で利用されたリサイクルプラスティックは **3,100 万本以上のペットボトルに相当**

50%
リサイクルされた製造廃棄物が Nike Air のソールに占める割合

75%
VaporMax Random の Air ソールの製造で使用される リサイクル素材のうち、Flyknit の廃棄糸とヒールカウンターの CD が占める割合

エネルギー/炭素

60 万メガワット時間
の**再生可能エネルギー**: Nike の世界使用電力の 75% 以上に相当する年間契約電力量

>30%
の Nike の世界店舗が **LEED 認証を取得**

7.33 kg
の CO_2 換算値/ユニット: Nike **製品のカーボンフットプリント平均値**

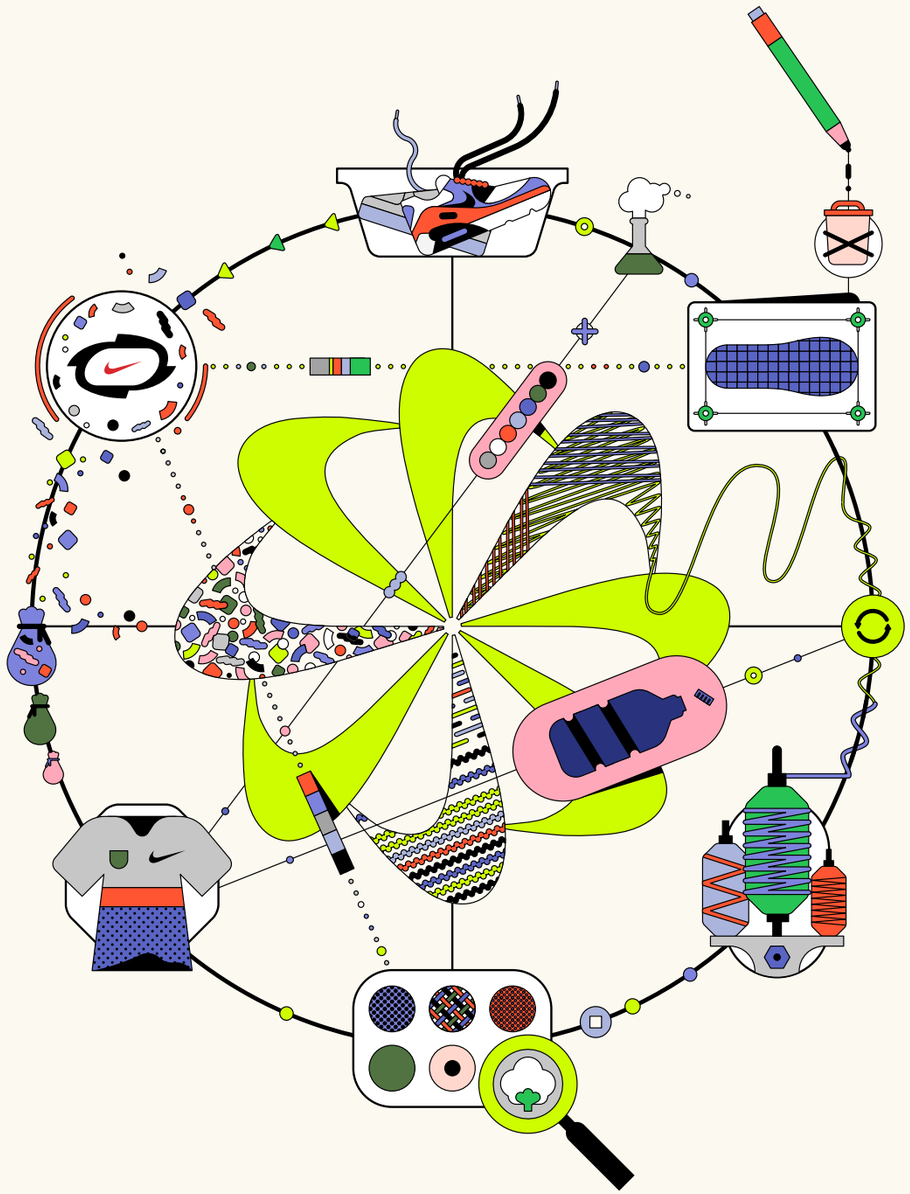
環境フットプリントの最小化

循環性

循環的なデザインガイド
ロンドン芸術大学セントラル セント マーチンズ校の学生とスタッフが作成したガイド。Global Fashion Agenda のアイデアと融合させて、循環性に関する**一般的メッセージ**を共有

1 億 2,000 万ポンド（5 万 4,400 トン）
Nike Grind がリサイクルしたフットウェア工場の使用素材（現在までの累計）

>3,000 万組
のシューズをリサイクルしてランニング用トラック、遊び場などのサーフェスに使用（「Reuse - A - Shoe」プログラムの開始以降の累計数）



廃棄物

99.9%
の**フットウェア製造廃棄物を**契約工場でリサイクルするか、エネルギーに転用

200 万 kg/年
の廃棄物節減:
Nike バリューチェーンの契約工場が 1,000 台を超える効率的な最新裁断機を導入した効果

使い捨てペットボトル
の排除を当社の世界各国本社と主要都市（LA、NY、ロンドンなど）で徹底

25%
Converse の梱包の削減率: 製品あたり 2 箱から特製ボックス 1 箱（OneBox）にシフトした成果

FY19 ターゲット データ

キー	▲ 増加	▼ 減少
改善	△	▽
悪化	▲	▼

	測定単位	FY15（基準）	FY16	FY17	FY18	FY19	FY19 基準年比変化率	ターゲット
人材の潜在能力を活かす								
コミュニティへの影響								
年間投資（税引き前純利益に占める率）	%	1.9%	1.8%	1.9%	1.8%	**1.9%**	**N/A**[1]	1.5%
製造現場の改革								
製造[2]								
ブロンズ以上ランクの工場	%	86%	87%	91%	93%	**93%**	**△44 p.p.**[3] （FY11 を基準とする値）	100%
環境フットプリントの最小化								
商品								
製品のカーボン フットプリント平均値[4]	（kg CO_2 相当/ユニット）	7.33 kg	7.19	7.15	7.45	**7.33 kg**	**0%**[5]	▽ 10%
持続可能性達成度合いの評価済み製品[6]	%	27%	68%	71%	73%	**69%**	**△42 p.p.**	80%
素材								
持続可能素材 - アパレル（AP）[7]	%	19%	21%	33%	34%	**41%**	**△22 p.p.**	増加
持続可能素材 - フットウェア（FW）[7, 8]	%	31%	31%	32%	32%	**30%**	**▼1 p.p.**	増加

FY20 ターゲットの詳細は、2019 年度 NIKE, Inc. インパクト レポート（purpose.nike.com）を参照してください。

1 これは年間ターゲットです。基準年と基準年比変化は適用されません。
2 全完成品の製造が対象です。
3 p.p. = パーセンテージ ポイント。
4 ターゲットには Nike がデザイン/開発した Nike ブランド、Jordan Brand、Nike Golf Global のアパレルスタイル、および Nike ブランド、Jordan Brand、Nike Golf Global のフットウェアスタイルが含まれます。他の環境への影響（エネルギー、その他の大気排出など）の代表として、CO_2 相当排気量を使用しています。
5 製品のカーボン フットプリント平均値は 2015 年度の基準年と比較して横ばいでした。これはユニットあたりの素材（アパレル製品の重量化）と製品排気濃度（ベトナムでのスマート グリッド電力とスタイル/モデルの取り合わせが要因）の両方が上昇したことが原因です。FY20、Nike では炭素に関して他に 2 つのターゲットを設定しています。1 つめはティア 1（完成品の製造）と他の主要事業の組み合わせ、2 つめはティア 2（素材の仕上げ）です。製品ターゲットはティア1からティア 4 （素材の製造と原料生産）が該当します。
6 製品範囲には、Nike ブランド、Converse、Hurley および Nike ブランドライセンス製品すべてが含まれます。
7 Nike では、持続可能性の高い素材を「優れた化学的性質、資源集中度の低減、廃棄物削減、リサイクル可能性を通じて、環境への製品の影響を軽減する素材」と定義しています。
8 FY16 と FY18 の FW EPM 割合（%）は Nike のデータガバナンス プロセスで発見されたレポートの差異により修正されています。
9 認定オーガニック、Better Cotton（Better Cotton イニシアチブ規格に基づき栽培される綿）またはリサイクル原料。
10 FY18 のデータは、Nike のデータガバナンス プロセスで発見されたレポートの差異により修正されています。

FY19 ターゲット データ

キー	▲ 増加	▼ 減少
改善	△	▽
悪化	▲	▼

	測定単位	FY15（基準）	FY16	FY17	FY18	FY19	FY19基準年比変化率	ターゲット
環境フットプリントの最小化（続き）								
炭素とエネルギー								
再生可能エネルギー - 所有または運営[11]	%	14%	20%	22%	22%	**27%**	△ **13 p.p.**	100%
ユニットあたりエネルギー消費量 - 主要事業[12]	（kWhe/ユニット）	5.28	4.75	5.32	5.42	**5.51**	▲ **4%**	▽ 25%
ユニットあたり炭素排出量 - 主要事業[12]	（kg CO_2 相当/ユニット）	1.89	1.73	1.90	1.97	**1.94**	▲ **3%**	▽ 25%
1 kg あたりエネルギー消費量 - 織物の染色と仕上げ[13]	（kWhe/kg）	15.86	15.46	14.95	14.40	**13.44**	▽ **15%**	▽ 35%
1 kg あたり炭素排出量 - 織物の染色と仕上げ[13]	（kg CO_2e/kg）	4.78	4.68	4.55	4.33	**4.06**	▽ **15%**	▽ 35%
廃棄物								
埋め立て廃棄物 - フットウェア製造[14]	%	-	6.6%	3.9%	1.8%	**0.1%**	▽ **6.5 p.p.**	0%
廃棄物指数 – フットウェア製造、流通センター（DC）、および本社（HQ）[15]	-	100	98	100	103	**102**	▲ **2%**	▽ 10%
DC と HQ の埋め立てからの転換[16]	%	88%	87%	88%	87%	**89%**	△ **1 p.p.**	増加
水								
1 kg あたり水使用量 - 織物の染色と仕上げ[13]	L/kg	-	126.5	117.2	109.3	**94.3**	▽ **25%**	▽ 20%
化学物質								
Nike 制限物質リストへの準拠テスト率	%	95%	99%	98%	99%	**98%**	**N/A**[17]	100%
ZDHC の製造時制限物質リスト（MRSL）に準拠[18]	%	-	-	-	67%[18]	**79%**	△ **12 p.p.**	100%
Nike の排水品質要件を満たす特定サプライヤー - 織物染色・仕上げ[19]	%	-	-	-	40%	**51%**	△ **11 p.p.**	100%

FY20 ターゲットの詳細は、2019 年度 NIKE, Inc. インパクト レポート（purpose.nike.com）を参照してください。

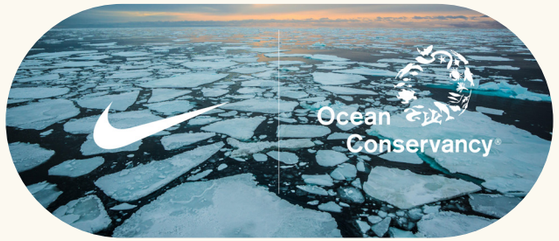
11 ターゲット範囲には Nike が戦略資産におけるエネルギーの購入判断を下す電力のみが含まれます。スコープ 1 と 2 の CO_2e 排気量が FY25 までに 50% 以上削減（絶対値）することに相当します。100% を達成するターゲット年は FY20 でなくFY25です。このターゲットの FY18 度業績データは Nike の PPA 追跡プロセスの強化（FY18）により修正されました。この強化により、レポートの網羅性と精度が向上しています。
12 主要事業とは、完成品の製造、入荷と配送業務、DC、HQ、Nike 直営リテールを指します。このターゲットの過去の業績データは Nike の物流排気量データ ソース（FY15～FY18）の移行、および Nike の PPA 追跡プロセス強化（FY18）により修正されています。この強化により、レポートの網羅性と精度が向上しています。
13 測定値に含まれるのは特定サプライヤーのみです。特定サプライヤーとは、完成品の組み立てに直接使用される素材の染色や仕上げに関わる主要サプライヤーを指します。
14 ターゲットは埋め立てと焼却の両方の廃棄物を対象とします。焼却には廃棄物からのエネルギー回収は含まれません（別途注記される場合を除きます）。
15 廃棄物指数は、Nike のユニットあたりフットウェア製造廃棄物、DC のユニットあたり廃棄物、HQ の占有者あたり廃棄物を加重平均した値です。基準年は FY15 です。ティア1のフットウェア製造および Converse HQ は FY16 を基準としますが、年度別に比較できるように Inc. 全体の基準年に含まれています。
16 基準年は FY15 です。Converse HQ は FY16 を基準としますが、年度別に比較できるように Inc. 全体の基準年に含まれています。
17 新しい化学物質の導入と制限の厳格化に伴い、サプライチェーンはより厳格な要件を採用するため、若干結果が悪化する場合があります。こうした変化のため、基準年または基準年比変化は評価していません。
18 Nike でこの測定値を追跡開始したのは 2018 年度です。FY18 のデータは、Nike のデータガバナンス プロセスで発見されたレポートの差異により修正されています。
19 このターゲットは現在、ZDHC 排水ガイドラインを使用して測定、報告されています。以前は、BSR 基準を使用して測定、報告されていました。Nike は、サプライヤーに 24 の標準的測定基準と 202 の危険化学物質の管理義務を定める ZDHC 排水ガイドラインを、当社素材の約 80% を生産するベンダーに対して FY17 に導入しました。FY18 は ZDHC 基準に照らしたテストの初年度でした。

取り組みとコラボレーション

取り組み

Arctic Shipping Pledge

Nike は非営利の環境保護団体 Ocean Conservancy と共同で、「Arctic Shipping Pledge」を創設しました。この協定は、環境への悪影響を考慮し、北極圏経由の船舶での輸送を意識的に控えることを目的とします。協定に最初に署名した主な企業として Bestseller、Columbia、Gap Inc.、H&M Group、Kering、Li & Fung、PVH Corp. のほか、海洋船舶会社数社が挙げられます。



詳しく知る:
Arctic Shipping Pledge

Science-Based Targets

Nike では Science-Based Targets イニシアチブを通じて 2030 年までに削減するカーボン フットプリントの量に関して大胆で野心的なターゲットを設定し、同年までにスコープ 1 と 2 の排気量は 65%、スコープ 3 の排気量は

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

詳しく知る:
Science-Based Targets

Circular Fashion System Commitment

Global Fashion Agenda（GFA）の戦略パートナーとして、Nike はGFAの 2020 Circular Fashion System Commitment を全力で支援し、循環的なデザイン戦略（Nike の循環的デザインガイドに定義）の導入に動いて

2020 CIRCULAR FASHION SYSTEM COMMITMENT

詳しく知る:
Circular Fashion System Commitment

コラボレーション

RESPONSIBLE LABOR INITIATIVE

責任ある労働イニシアチブ

Nike は、レスポンシブル・ビジネス・アライアンスによる多様な業界の複数の関係者が関与するイニシアチブ「RLI」に参加しています。このイニシアチブは、買い手とサプライヤーが強制労働のリスクを管理する

詳しく知る:
責任ある労働イニシアチブ

REBA
Renewable Energy Buyers Alliance

Renewable Energy Buyers Alliance

Nike は新設された「Renewable Energy Buyers Alliance」の創設メンバーです。これはクリーン エネルギーの大口バイヤーの同盟であり、非居住者のエネルギー購入者に市場を開放して、エネルギーがより環境に優しく、経済的にも繁栄をもたらし、炭素排出量ゼロとなる未来への転換を加速させます。

詳しく知る:
Renewable Energy Buyers Alliance

Sustainable Air Freight Alliance

Sustainable Air Freight Alliance

Nike は Sustainable Air Freight Alliance の創設メンバーです。この取り組みは、荷送人、運送会社、航空会社の間で買い手とサプライヤーが相互に協力し、空輸による二酸化炭素排出量を追跡および軽減し、責任ある貨物輸送を促進することを目指しています。

詳しく知る:
Sustainable Air Freight Alliance

以下のサイトでレポート全文をダウンロードできます

PURPOSE.NIKE.COM